

2025年1月25日

## 由比ガ浜の地域の交通・防災問題について

鎌倉市における、交通問題、防災問題は、悪化の一途をたどり、解決策が見出されないまま放置されていることは、皆様ご承知のことと思います。

折りに触れて市への要望、問合せをしておりますが、今回、議会への陳情を通して、さらに問題点を感じ、ここに各地区の皆様とも検討、要望を行っていきたく、情報提供をさせていただきます。ご検討のほど、よろしく願いいたします。

### 1. 地域の交通問題の例

「旧海岸通り」が歩行者尊重道路」であることと、その対策が不十分である

「旧海岸通り」は、令和元年に環境省に対して鎌倉市が指定した4つの「歩行者尊重道路」のうちの一つであるが、その報告以降、具体的な策が講じられていない。

⇒市の回答

旧海岸通りについては、自動車の流入抑制と歩車分離を推進。また令和7年の交通マスタープランで配慮。

⇒大石市会議員から

地域住民からの指摘はあるのか？（市の回答では「特に意見が出ていない」）→であれば特に対応する必要はないとの意見

★地域から意見がないので、対応しないでよい、という単純な結論が導かれてしまっている。

## 2. 地域の防災問題の例

「鎌倉市津波避難計画（平成 27 年）」で「避難困難地域」とされているにもかかわらず、避難のための整備は進まず、一方でこの地区に住民増、車両増を図ろうとしている。

また観光客については、「鎌倉市観光客等地震・津波対策ガイドライン（令和 5 年 3 版）」において、住民の計画とは分離して運用。また観光客の避難には、住民の援助など助け合いを求めることが明記されているなど実態に即さない内容のままとなっている。

また令和 5 年に配布された防災資料「第一小学校ブロック 4 地区代表者会議」資料では、材木座・由比ガ浜地区の津波浸水区域に居住する住民は 15000 人に対して、由比ガ浜地区住民が利用できる津波緊急避難ビルの収容人数は 9620 人と、明らかに住民数に対して収容が不可能な数のみで放置されている。

⇒数値上の不整合があるにも関わらず、国から示された計算通りに行っている、住民全てがその時に在宅して避難ビルに行くわけではないという発言で、問題がないとし、再検証が不要な根拠を示していない。

⇒議員や市の担当者の多くは、津波から逃れて、高い建物に上がればよい、という想像しかできていないものが多く、由比ガ浜から山側に逃れる道路が狭く車と人であふれ、さらに避難が困難になるであろうことに言及したり、指摘する者は、一部の議員に留まった。

★少なくとも、現況に照らして改善方法を検討しているのであればともかく、住民からの意見がなく、全市、全庁的に、マスタープラン、避難計画などの総論に添っているので、それ以上の対応は行わない、という見解であった。

### 3.まとめと提案

市としては、このように自然災害の頻発かに加え、交通・防災状況が悪化の一途をたどる中、現況を鑑み対応をすることなく、さらに、住民からの要望がない、と片付けられている状況と、それに対するアクションを起こさない姿勢に大きな危惧を感じる。

特に、都市マスタープラン、避難計画、ハザードマップなど、国からの指示で行う大きな計画、施策は作成をするものの、地域ごとの特性を理解した綿密なプランまで検討・記載されていず、住民にとっては極めて不十分な内容である。

1, 2に挙げた由比ガ浜の例だけでなく、近隣の地域においても、同様の問題が起こっていると考えられる。

今後、特に、交通・防災問題は、住民、自治会における検証、意見集約を行い、常に市に対する要望を行っていくべきと考える。

(参考資料)

由比ガ浜地区の交通および防災問題に関する陳情

## 1.陳情の要旨

鎌倉市における由比ガ浜地区の交通および防災問題について、十分な対策が講じられていないことについて陳情します。さらに本問題は、由比ガ浜地区に限らず、全市的な課題と考えられるため、これを契機に市全体の問題として検証し、是正を求めるものです。

## 2.陳情の理由

### ●背景と主要課題

#### 1.交通渋滞の深刻化

- ・旧海岸通りの車両増加による影響と、鎌倉市が定める「歩行者優先道路」としての整備不足。
- ・旧海岸通り周辺の道路幅が狭く、通常時の危険が常態化、さらに緊急車両通行の妨げとなる可能性が高い状況。

#### 2.避難困難地域での住民増加リスク

- ・鎌倉市防災ハザードマップにより避難困難地域とされているエリアに、大規模マンション建設計画（3連1棟158戸・収容台数160台の駐車場）が進行中
- ・津波避難場所の収容人数が不足しており、住民および観光客の安全が脅かされている。「令和5年3月 第一小学校ブロック4地区代表者会議」資料によると、材木座・由比ガ浜地区の津波浸水区域に居住する住民は15000人に対して、由比ガ浜地区住民が利用できる津波

緊急避難ビルの収容人数は 9620 人。

### 3.観光シーズン中の避難困難化

観光客の避難を考慮した防災対策が不十分。

#### ●指摘事項と未対応の内容

交通状況悪化へのシミュレーションが不十分。

避難困難地域としての総合的な防災対策が進んでいない。

#### ●具体的要望

##### 1. 交通問題への具体策

交通シミュレーションを実施し、周辺地域の人口増加や車両増加を踏まえた影響を評価。

海側の人口増加を招く大規模建造物の抑制。

##### 2. 防災対策の強化

避難施設および収容人数の検証と改善。

歩道整備や避難施設の拡充による避難経路の確保。

住民に加え観光客の避難対策の策定。

##### 3. 全市的な視点での対応

鎌倉市全域の交通・防災問題についての検証と対策の策定。

##### 4.市・事業者・地域住民の協議

R5-1 事業に限定した早急な対応を 3 者協議によって実施し、全市的な対応計画の期限を明

確化。

●まとめ

この陳情書では、由比ガ浜地区における住民や観光客の安全確保を目的に、市に対し迅速かつ具体的な対応を求めています。また、これを契機に全市的な交通・防災問題への取り組みの必要性を提起しています。

地域住民の安全と生活環境を守るため、市および事業者には、具体的な検討・改善を進めていただくよう、強く要望いたします。

なお本件は、届出された大規模開発事業R5-1の2024年8月23日公聴会において、その事業に関して公述した内容ですが、11月14日まちづくり審議会では、これについて具体的な検討や回答が得られませんでした。

また、特にこの問題は、事業者が検討することではなく、市が対応すべき問題であると考えますので、鎌倉市議会への陳情といたしました。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和6年12月2日

提出者

鎌倉市議会議長

池田 実様